

わたしの実践報告

『はね娘』

① はじめに

3年生は、3クラス97名、素直で、仲がよくまとまった学年である。

この子供たちは、1、2年生の運動会では、かわいい、ふりつけのダンスを踊っていて、民衆は見るのも踊るのも、はじめてである。

② この子に「はね娘」を

「はね娘」を知った時から、ぜひこの子供たちに踊らせたいと思っていた。大人がやって、おもしろいから、子供たちだって、うきうきと動かしたくなる。楽しいはずだと思ったのである。

- 軽快なリズムに、のって元気よく、はねる感じを表現してほしい。
- 友達と踊る、みんなと踊る楽しさを味わってほしい。

こんなことを目標に、まずは、子供たちに見せようと、教師の踊りの練習が始まった。

③ 練習を始める

運動会の練習時間は、他の競技も含めて、全学年、体育館9時間、運動場9時間の計18時間である。

体育館での練習は、全て「はね娘」に使う。

• ステップを覚える

1・2番	(a) 2さし	(b) 右左右左右左	(c) 3ケン
	(a) 3 "	(b) "	(c) 3 "
	(a) 3 "	(b) "	(c) 3 "
	(a) 3 "	(b) "	(c) 4 "

3番			
4番	(a) 3さ	(b) "	(c) 3ケン
	くり返し		
	ポーズ		

初めは全て、3さし、3ケンのステップで練習した。

(a) 「1と2と3(ソレ)」(b) 「右左左右左右左」(c) 「パーしてペケしてケン、ケン(ソレ!)」という言葉がけで、ゆっくり指導した。

• 子供たちの様子

(a)と(c)は比較的スムーズにできたが、問題は(b)である。

8=間を続けてやるなんて、めっそうもないことである。そこで「右左ケン 右」の4=間と、「左右ケン左」の4=間にわけて練習した。それでも、つなぎの右足と左足とが、ごちゃごちゃになるので、「右左左そろえて」と一度、両足をそろえて、次の左足に入ることにした。一緒に、かけ声をかけ、グループで練習し、なんとかリズムに乗ってきたが、子供たちには、ここが一番むずかしいところだった。

• 扇づくり

9月の参観日に、お母さんにお願ひして、子供たちと一緒に扇を作ってもらった。画用紙を折り、切り、開き一本一本のリブけをする。お母さんたちも汗だくで、真剣そのもの。でも45分で扇一つがやっと。あとの一つは宿題ということにした。

を实践して(運動会)

• 扇を持って

自分たちで作った扇を持って踊るのが、うれしくて、うれしくて、踊りにも一段と力が入ってきた。とは、いっても、手と足のステップを、あわせると、またまた大変であった。ここでも、ゆっくり時間をかけた。できたところから白い扇に、赤、青、黄のスプレーで色をつけてあげると、また、はりきって踊りはじめた。

• ステップは、かてに変わるものではない

いよいよテープに合わせてみようという時になって2さしや3さし、3ケン→4ケンが長ざると、よいいに、ややこしくなるのではないかと考えた。

1回目	2さし 3ケン	3さし 3ケン
2回目	3さし 3ケン	3さし 3 "
3回目	3さし 3ケン	3さし 3ケン
4回目	3さし 4ケン	3さし 3ケン

(本当は1=間ずくる)

数の上では同じではないかということになり、1回目から4回目まで3さし3ケンを通して踊ってみることにした。子供たちは、どんどん踊りつづけたが、テープの音楽のリズムとは、とんとんかけ離れていった。

なぜずれるのかと考え、2・3回繰り返して練習した。あまり踊りと音楽とが合わないの、2さし4ケンのあることを教えると、「先生、この方が踊りやすいわ」……。

伝統的に伝えられて来たステップには、

それだけのウケが、あったようだ。

④ 発表の日

運動会には、赤・青・黄 3クラスが、それぞれ色の扇を持ち、背中に八尺帯を結んだ。子供たちは、大きな、かけ声とともに、リズムにのり、全身で満一杯の表現をしていた。

そして今……子供たちは本当に「はね娘」が好きだ。となりの空き教室を民衆教室として4年生になった今も、好きな時にテープを流し、扇を持って踊っている。

⑤ 「はね娘」を踊って 感想文

みわ内 たかひろ
ぼくは、さいしよに、はね娘の、おどりをした。おどりは、つまんなかったけれど、だんだんおもしろくなってきた。一年生の時や二年生のおどりは、はずかしかったけれど、いまのおどりをしても、ぜんぜんはかしくなりました。



たなか
とぼくは、おもいました。運動会も、おもしろい。と、おもしろい。